

## 第15回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和5年12月21日（木）午後7時00分～午後8時30分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
  - (1) 委員 20名
  - (2) 事務局 7名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐、小野塚教育施設係長

### 4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
-----	------

#### ① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和5年12月21日現在）

事務局 （資料に基づき説明）  
（質問等なし）

#### ② 提言案の検討（ワークショップ形式によるグループ討議）

##### 提言③ 中学校の適正な配置

- ・30年後の十日町市立中学校の適正な配置
- ・10年後の十日町市立中学校の適正な配置

（内容は別紙のとおり）

### (3) その他

#### ① 次回会議の開催日・内容について

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

#### ② その他

なし

### (4) 閉会

グループ討議「提言③ 中学校の適正な配置」 意見まとめ

R5.12.21 第15回市立中学校のあり方検討委員会

テーマ	分類	No	内容	班
30年後の適正な配置	全市で1校	1	全市で新設1校	1
		2	新設中学校1校。30年後の生徒数が約350名→1学年3学級×3学年規模	1
		3	十分な教職員配置で学校の課題解決ができる学校経営・学級運営	1
		4	学ぶ場の保障された学校	1
		5	全市で1校新設新校舎	2
		6	幼保小中一体型の学校。長い目で同じ目標に向かって育てていける学校になるといい	2
		7	学校に行きたい！と思えるような環境が整っている	2
		8	想像以上の人口や経済の状況に柔軟に対応する（法令等も含めて）	2
		9	10年後の構想から30年後に向かう方針を市民から十分に理解していただく	2
		10	各学年3クラスずつの新設校を1校つくる	3
		11	子どもたちの人数から学校は一つにしたほうがいいと思う	4
		12	小中一貫で全市内1校	4
		13	集約された校舎1校（全校300人以上、各学年3学級、特別支援4学級、通級2教室）	4
		14	新しい施設にして交通の便の良いところに建てよ	4
		15	郊外に1校	4
	拠点校1校+α	16	30年後の中学校の形は拠点となる学校を1校とし、他は複数でも認める	1
		17	中学校の統合は地域の考えで行う	1
		18	複合型サブキャンパスを持つ新設1校（特別支援含め1学年4～6学級）。興味関心・習熟度対応、多様性と協働性を育む、地域貢献や社会貢献意欲の涵養、県立高校との接続性UP推進、教員の働き方改革、津南町との合同設置？	2
		19	（30年後は）越後妻有地域に、県立高校や県立中等教育学校が存在する意義を問われかねない生徒数 → 飯山線、ほくほく線、上越線で結ばれる地域内で、地域貢献と選択可能性を高校において確保したい	2
		20	松之山方面と下条または中里方面に小規模校を1～2校つくる（校舎存続）	3
		21	前市1学区とし、途中転籍も認める	3
		22	中心校は市に1校、分校的に旧市町村に各1校	4
		23	分校は小中一体（一貫）または小中だけにこだわらない	4
	市内に2校	24	十日町・下条・中里・松代・松之山を一つにするのは大変。せめて、川西・川東の2拠点をつくる（小中一貫校）	2
		25	市内2校にする	3
		26	新設で2校に統合	3
		27	北に1校、南に1校	3
		28	十日町・中条・下条・川西で1校、中里・水沢・南・吉田・松代・松之山で1校	3
		29	2校のうち、1校は上沼道の水沢IC付近に新設	3
		30	30年後でも1学年2学級以上	3
		31	郊外に2校	4
	拠点校2校+α	32	信濃川右岸に1校（新設・新築）、信濃川左岸に1校（新設・新築）、十日町市街地に小規模校1校（大勢が苦手な人のために）で選択制	1
		33	現学校区を参考に主校を2校・サテライト校を2校、校舎は新設もあり	2

テーマ	分類	No	内容	班
30年後の適正な配置	現状を維持	34	現在の中学校区に幼保小中一体型の学校。これに公民館（コミュニティセンター）、児童センター、福祉センターを併設	1
		35	現在の状態の学校の位置を基本とする	3
		36	統合の討議ではなく、どうして人口減になったかの内容を検討するのが一番	3
		37	30年後に向けて行政が人口増になるよう死に物狂いで頑張る	3
		38	地域に学校はあり続けたい。学校のない地域に人は増えないと思う	4
	教育環境・教育活動	39	特化したカリキュラムのある学校	1
		40	特色ある教育活動の展開、課外活動の充実	1
		41	自由に過ごすことのできるゆとりスペースがあることが望ましい	1
		42	地域の人と活動できるスペースがあることが望ましい	1
		43	体育館を広くして冬場の体力向上	3
		44	読書の推進（学校のすぐ近くに充実した図書館のある公民館）	3
		45	幼保小中一体型の学校	3
	通学方法	46	スクールバスの充実	4
		47	スクールバス等を多く出す。時間的平等	4
		48	学校間のスクールバスの運行	4
		49	スクールバス、鉄道、タクシーなど通学方法を整備する（十日町駅周辺）	4
場所・立地	50	松之山から市の中心部に来るのは時間がかかりすぎる	3	
	51	人が多いところではなく、アクセスの良いところ	4	
	52	安全性の高い土地	4	

テーマ	分類	No	内容	班
10年後の適正な配置	2校～3校	53	複合型サブキャンパスを持つ新設1校または2校。30年後が1校なら、この時期を過渡期と考え、メインキャンパス2つとサブキャンパスを持つ形態。2校でも校歌は一つ。30年後も使用する校舎を新設する。	2
		54	学年3クラス程度の新設校をつくり、中心地でいくつかの学校をまとめる	3
		55	新設で2校に統合	3
		56	1校は黒沢（水沢地区）、1校は笹山（中条地区）	3
		57	学年3学級を維持	3
		58	全教科専門教員で	3
		59	子どもの人数から2～3校程度に整理する	4
		60	まつのやま学園とあわせて市内3校にする	4
		61	最新施設設備を備えた新校舎をつくり統合する	4
		62	地域や通学負担に配慮してサテライトも（特区申請）	4
	小規模統合	63	現学校区を参考に主校を3校・サテライト校を3～4校程度、校舎は現状校を使う	2
		64	今ある校舎を使い一時的に小規模統合	4
		65	サテライトも考慮して	4
	現状を維持	66	川西・中里・松代・松之山は各1校、十日町中学校まず元に戻し後は現状のままの位置	3
		67	現状維持	4
	教育環境・教育活動	68	学びを選べる	2
		69	学力の向上を重点にしてもいいのでは	2
		70	教職員だけでなく、地域の人の働き場として活用	3
		71	学校間の合同行事など取り入れていく	4
		72	スクールバスの充実（時間も安全性も）	4
		73	学区なくすなど市立なりの特色求む	4
74		部活の地域移行に合わせて学区の配置	4	
75		校舎は新しく、大きく、安全で、設備の良いところ	4	
76		既存の校舎を利用する	4	
将来を見据えて	77	30年後を見据えて熟議していく	1	
	78	30年後を見据えて新しい学校を作る	1	
	79	教育法の改正を目指す（定数など）	1	
	80	中途半端な統合では納得してもらえない	2	
	81	県立中等教育学校（あるいは県立中学校）の影響を大きく受ける生徒数 → 高校との接続、規模やコースについて住民（市民であり県民であり国民）・行政・議会などで検討することを提言することも、十日町市の教育大綱などを実現するために必要なのでは	2	

## 【1班】

テーマ	分類	内容
30年後の適正な配置	新設1校	全市で新設1校 新設中学校1校。30年後の生徒数が約350名→1学年3学級×3学年規模 充分な教職員配置で学校の課題解決ができる学校経営・学級運営 学ぶ場の保障された学校
	拠点校1校 + α	30年後の中学校の形は拠点となる学校を1校とし、他は複数でも認める 中学校の統合は地域の考え方で行う
	新設3校	信濃川右岸に1校（新設・新築）、信濃川左岸に1校（新設・新築）、十日町市街地に小規模校1校（大勢が苦手な人のために）で選択制
	幼保小中一体型に公共施設併設	現在の中学校校区に幼保小中一体型の学校。これに公民館（コミュニティセンター）、児童センター、福祉センターを併設
	特色ある教育活動	特化したカリキュラムのある学校 特色ある教育活動の展開、課外活動の充実
	スペースの活用	自由に過ごすことのできるゆとりスペースがあることが望ましい 地域の人と活動できるスペースがあることが望ましい
	10年後の適正な配置	30年後の適正配置を目指した準備

【2班】

テーマ	分類	内容
30年後の適正な配置	全市一つ	<p>全市で1校新設新校舎</p> <p>複合型サブキャンパスを持つ新設1校（特別支援含め1学年4～6学級）。興味関心・習熟度対応、多様性と協働性を育む、地域貢献や社会貢献意欲の涵養、県立高校との接続性UP推進、教員の働き方改革、津南町との合同設置？</p> <p>幼保小中一体型の学校。長い目で同じ目標に向かって育てていける学校になるといい学校に行きたい！と思えるような環境が整っている</p> <p>想像以上の人口や経済の状況に柔軟に対応する（法令等も含めて）</p> <p>（30年後は）越後妻有地域に、県立高校や県立中等教育学校が存在する意義を問われかねない生徒数 → 飯山線、ほくほく線、上越線で結ばれる地域内で、地域貢献と選択可能性を高校において確保したい</p> <p>10年後の構想から30年後に向かう方針を市民から十分に理解していただく</p> <p>現学校区を参考に主校を2校・サテライト校を2校、校舎は新設もあり</p> <p>十日町・下条・中里・松代・松代之山を一つにするのは大変。せめて、川西・川東の2拠点をつくる（小中一貫校）</p>
10年後の適正な配置	2校～3校	<p>現学校区を参考に主校を3校・サテライト校を3～4校程度、校舎は現状校を使う</p> <p>複合型サブキャンパスを持つ新設1校または2校。30年後が1校なら、この時期を過渡期と考え、メインキャンパス2つとサブキャンパスを持つ形態。2校でも校歌は一つ。30年後も使用する校舎を新設する。</p> <p>学びを選べる</p> <p>中途半端な統合では納得してもらえない</p> <p>学力の向上を重点にしてもいいのでは</p> <p>県立中等教育学校（あるいは県立中学校）の影響を大きく受ける生徒数 → 高校との接続、規模やコースについて住民（市民であり県民であり国民）・行政・議会などで検討することを提言することも、十日町市の教育大綱などを実現するために必要なのでは</p>

## 【3班】

テーマ	分類	内容
30年後の適正な 配置	統合	市内2校にする 新設で2校に統合 北に1校、南に1校 十日町・中条・下条・川西で1校、中里・水沢・南・吉田・松代・松之山で1校
	維持	現在の状態の学校の位置を基本とする 統合の討議ではなく、どうして人口減になったかの内容を検討するのが一番 30年後に向けて行政が人口増になるよう死に物狂いで頑張る
	規模	30年後でも1学年2学級以上 各学年3クラスずつの新設校を1校つくる
	位置	松之山方面と下条または中里方面に小規模校を1～2校つくる（校舎存続） 2校のうち、1校は上沼道の水沢IC付近に新設
	教育内容	松之山から市の中心部に来るのは時間がかかりすぎる 体育館を広くして冬場の体力向上 読書の推進（学校のすぐ近くに充実した図書館のある公民館）
	形態	幼保小中一体型の学校
	学区	前市1学区とし、途中転籍も認める 学年3クラス程度の新設校をつくり、中心地でいくつかの学校をまとめる
	統合	新設で2校に統合 1校は黒沢地区、1校は笹山地区
	規模	川西・中里・松代・松之山は各1校、十日町中学校まず元に戻し後は現状のままの位置
	教員	学年3学級を維持 全教科専門教員で
10年後の適正な 配置	学習環境	教職員だけでなく、地域の人の働き場として活用

【4班】

テーマ	分類	内容	
30年後の適正な配置	全市で1校	子どもたちの人数から学校は一つにしたほうがいいと思う 小中一貫で全市内1校 集約された校舎1校（全校300人以上、各学年3学級、特別支援4学級、通級2教室） 新しい施設にして交通の便の良いところに建てよ 郊外に1校か2校 中心校は市に1校、分校的に旧市町村に各1校 分校は小中一体（一貫）または小中だけにこだわらない	
	通学方法	スクールバスの充実 スクールバス等を多く出す、時間的平等 学校間のスクールバスの運行 スクールバス、鉄道、タクシーなど通学方法を整備する（十日町駅周辺）	
	場所・立地	人が多いところではなく、アクセスの良いところ 安全性の高い土地 地域に学校はあり続けたい。学校のない地域に人は増えないと思う	
	複数校に統合		子ども的人数から2～3校程度に整理する まつのやま学園とあわせて市内3校にする 最新施設設備を備えた新校舎をつくり統合する 今ある校舎を使い一時的に小規模統合 地域や通学負担に配慮してサテライトも（特区申請） サテライトも考慮して
		学区	学区なくすなど市立なりの特色求む 部活の地域移行に合わせて学区の配置 学校間の合同行事など取り入れていく
		校舎	校舎は新しく、大きく、安全で、設備の良いところ 既存の校舎を利用する
通学方法 現状維持		スクールバスの充実（時間も安全性も） 現状維持	
10年後の適正な配置			